

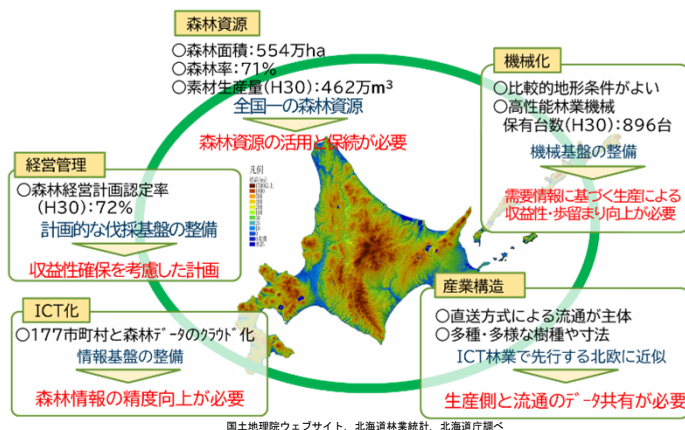
行政の窓

スマート林業の取組について

◆はじめに

本道は、カラマツやトドマツなど北海道特有の人工林資源が充実するとともに、木材生産量や高性能林業機械の導入台数が全国一であり、他県に比べて広大で地形が平坦である優位性を活かして、林業機械を活用した北海道ならではの林業が展開されています。

このような中、今後、森林づくりを担う人材の不足が懸念されており、限られた労働力で、適切な森林の整備・管理を進めるためには、ICT等の新たな技術の活用を一層進め、本道の豊かな森林資源の価値を最大限に引き出すことができるよう、北海道らしい「スマート林業」を確立し、全道に広めていくことが重要です。



◆これまでの取組

道では、これまで、森林資源の適切な管理に向けて、国の事業等を活用し、森林情報を市町村と共有するクラウドシステムの充実をはじめ、UAV等による詳細な森林情報の把握や、高性能林業機械を活用した森林施業の効率化・省力化などの取組を進めてきましたが、今後、本道の特性や強みを活かしたスマート林業を一層進めていく必要があると考えています。平成31年（2019年）2月には、下川町や芦別市などの4市町、ICT等の活用を進める大学や研究機関、企業等の産学官からなる「スマート林業EZOモデル構築協議会」を設立し、実用化に向けた課題などの検討をはじめました。

◆令和2年度（2020年度）の道の取組

協議会では、国事業「スマート林業実践対策」を活用し、ICTハーベスタを活用した生産情報の管理や検知省略の試行など、川上と川下の相互利用などのモデル的な取組を実施しています。

また、本年度から道事業「スマート林業構築推進事業」により、スマート林業に関するシンポジウムや、全道5箇所でのICTハーベスタなどICTを用いた機械の実演会、ICT機器の事業体での試行など、技術の普及に向けた取組を展開していきます。いずれも実施前にはお知らせしますので、興味のある取組にはぜひご参加ください。

今後も産学官が一体となって、ICT等の先端技術を現場レベルで活用する、北海道らしいスマート林業の確立に向けて取り組みを進めてまいります。



ICTハーベスタバリューバッキングの活用実証



カメラによる木材検知省カシステムの実証
(水産林務部林務局林業木材課林業木材係)

